



東地中海地域ニュース

パレスチナ：中東和平

(5月8-9日付現地報道)

米国が提案したベンチマークに関するパレスチナ関係者の反応：

1. アッバース大統領の発言（8日付「パレスチナ・タイムズ」紙、「クドゥス」紙）

- (1) 計画（ベンチマーク）は、ラファハ通行所を週6日開くこと、カルニ通行所を夜11時まで開くこと、及びガザ地区と西岸の間にトラックを通行させる為に必要な治安対策を含んでいる。又、治安対策は、カッサム・ロケットの発射阻止の為にガザ地区北部に治安部隊を展開させることや、武器密輸防止の為にパレスチナ・エジプト国境沿いのサラハディーン地帯への展開を含んでいる。
- (2) 強調すべきは、米国の計画が政治的なものではなく、飽くまでも治安に関連したものだということである。
- (3) 受領した米国提案には、治安の確立に向けた重要な諸措置が含まれている。かかる計画を通じて、イスラエル政府がパレスチナ指導部と協調していくことを求める。

2. 大統領府報道官（9日付「パレスチナ・タイムズ」紙）

PAは、米国によって示された治安計画を実施する為にあらゆる努力を行う用意があり、イスラエル側にもそのように呼び掛ける。しかし、2000年9月以降実施されているあらゆる形態の治安予防策を排除することが、エルサレムを首都とする独立国家パレスチナを建設すると共に、難民の帰還に関する国連決議の履行を可能にする真剣な最終地位交渉に向けた真の停戦を実現する唯一の方法である。

3. バルゲーティ情報庁長官（8日付「クドゥス」紙）

PA内閣は公式にはかかる計画を受け取っていない。イスラエルは、始めからかかる計画を拒否している。これは、和平に向けたイスラエル側パートナーが存在しないことを裏付けるものだ。移動の自由は、国際法上の人権であり、政治的妥協と交換することは出来ない。